

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500099		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家湊川		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区湊川町9丁目12番7号		
自己評価作成日	平成23年4月25日	評価結果市町村受理日	平成23年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	新規開設の為、情報の公表制度調査対象外事業所
----------	------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成23年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の立地が悪いにも関わらず、積極的に外出を行っている。 又入居者との対話も多い。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①職員研修の充実(法人本部の管理のもと、年間事業計画の中に運営上必要な研修をしっかりと位置付け、各事業所の職員に対して定期的・継続的に実施がされている。各段階層別研修をはじめ、業務に必要とされる内容の知識習得研修の機会が充実しており、提供するサービスの質向上にむけての取り組みが積極的である。また、新人に対する研修内容もきめ細かいのが特長的である。事業所管理者が講師となり実施している「調理研修」をはじめ「ケア手順」等々、介護知識が初心者でも、楽しく充実して学べるように育成にも力を入れている。②地域交流(近隣の住宅環境・商店環境にも恵まれている。散歩や買物等の日常的な外出の中で、地域の一員として交流している。また、地元自治会長や民生委員等、地域にお住まいの方々がホームの良き理解者であり、協力を多く頂けているのは地域密着型サービス事業所としては大変ありがたいことである。)</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、その理念を共有し実践している。	事業所独自の理念として、「脳と体の活性化」、「地域との交流」、「個別ケア」の3つが掲げられている。日々、理念の実践に向けて前向きに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加し、近隣商店とも付き合いが有り、地域行事にも参加している。	地元の自治会に加入し、ふれあい喫茶などにも参加している。近隣商店(米屋・酒店・パン屋等)での食材購入はじめ、馴染みの関係づくりに向け積極的である。	近隣の方々への知識還元やイベントへのお誘い等も今後、検討してみてもは如何でしょうか
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて民生委員の方や自治会長様に報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二か月に一回開催し、取組状況の報告や意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1回、定期的で開催されている。地元自治会長や民生委員も出席し、近隣情報の提供を得ている。家族からの要望も聴く機会としている。	普段からの自治会長や民生委員の方々のご厚意に対して、ホーム側から、地域に対して、還元できる内容を検討されては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	具体的な取り組みは実践されて居ない。	日常的な質疑等を含め連絡をしている。運営推進会議では、市町村の意向も聴きながら取り組むようにしている。今後、警察や消防との連携も視野に入れている。	運営推進会議を活用し、時には会議の議題に沿った方(消防・警察・医療等)も、オブザーバーとして出席して頂く事で、専門的な知識を頂ける機会となります。ご協力を願って頂いては如何でしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の取り決めも施設内に掲示されており職員も理解している。玄関の鍵は車の通行による危険を回避する為に止む無く施錠している。	施設内の移動については1Fと2Fにエレベーターがあり、利用者は自由に利用できる。玄関は安全上施錠しているが、外出には職員が同行している。	抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、利用者との普段からの関係づくりに注力頂く事を検討願いたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても社内マニュアル等を通じて防止に努めている。	事業本部で、管理者レベルのコーチング研修を実施しており、事例としての取り組みも行われている。職員の導入時には、マニュアルを用いた研修が実施されている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、一部の利用者が利用を考えておりその都度対応している。	利用者の家族が希望すれば、適宜対応し説明もしている。法人としての研修取り組みも行われている。	利用者の権利擁護について、制度等も含め関連の知識の習得に期待をします。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を中心に時間を割いて、丁寧に説明し納得して頂いている。	契約に際しては、管理者の他、ケアマネジャー、ユニットリーダーが同席の上で説明が実施されている。	「契約」に際しては、十分な説明が実施できるように、制度の理解を含め、誤解を生じやすい重要個所の確認に期待をします。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度ユニット毎にカンファレンスを行い運営に繋げている。	運営推進会議に出席された家族を通じて、報告や説明がされている。新しく入居された家族には、積極的に声を掛け、意見を聴くように心がけている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社員アンケートを実施し、その結果に基づいて代表者の意見を聞く機会を設けている。	法人本部として、其々のグループホーム職員の意見を聴く機会を設けている。年に一度、アンケートによる就業内容や運営内容等に関する満足度調査や提案の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	きっちりとした人事制度が設けられており、等級制度を用いて向上心を持てる様に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社を中心とした研修制度が新入職者も含め定期的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の事業所と定期的に会議を開催している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時にも今抱えている問題を聞きながらケアプランに反映させている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してからも、家族を交えて変化等に配慮し、近況報告をし、関係づくりに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居迄の状況を把握し、今必要な事を的確に実践出来る様にしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々声掛けや対話をする事により又、家事を共同で行う事により、家族的な雰囲気を作る様にしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に特に制限は無く、入居者と家族様が外食や外出をされたりと、利用者本位である。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の近隣に住んで居られた方も多く、散歩に行かれた際などは記憶も甦る。。	遠隔地の人からは、手紙等を出してもらっている。もともと、地域の人が多いので、家族との外泊や、ドライブで自分の生まれた場所や馴染みの場所等に出かけている。	馴染みの関係を、ホームでの日常生活の中から、新しく構築していくことも可能なので検討願いたい。
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際の席の配置や入居者の性格等を考慮し、なるべく多くの関わりが持てる様に留意している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ごく一部の利用者に限定されるが、ほとんどその例がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意思を尊重し、家族様にも今迄の暮らしぶりを聴取しながら、本人本位に検討している。	入居前に家族からアセスメントをしている。本人の意向を把握するために、観察から汲み取ることもある。	本人本位の介護計画のために、更に、「意向を表せる機会」「意向を表せる言葉かけ」に意識して取り組んでいられることに期待をしたい。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの際に話をし、入居後もその経過を定期的にチェックしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別に日々カルテに記録を残し、その様子を職員間で申し送りしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時には現況を伝え、現状に即したプランを作成、変更している。	ケアマネジャーを中心に、カンファレンスを行っている。職員のケース記録をプランに反映させることと、家族の意向を確認することを基本としている。	日々のケア記録の充実の他、計画の定期的な見直し時期には、家族からの要望等を把握しやすい様子を工夫される等、更に充実したアセスメントに期待をします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(25)同様に職員間で情報を共有する事により計画見直しに役立っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所のスケールメリットを生かし、会社内で活用出来る支援やサービスを利用している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会活動の参加や自治会館等の公共施設を利用する事によってQOLの向上に取り組んでいる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科。歯科と医療提携を結んでおり、入居者の急変時等にも速やかに対応して頂いている。	利用者の全員が、かかりつけ医を協力医に切り替えている。整形や眼科については個別対応をしており、歯科医は月に2回、口腔ケアティーチングを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員内に看護師がおり、医師の往診時や入居者の急変時等には適切な受診や看護を受けられる体制にある。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と連絡を密にし、現状把握に努めている。	入退院時には、看護師の職員、管理者が対応しており、入院時にはフロア担当職員も病院との連携に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にその話を行い、入居者の状況が変化する度に話し合いを行っている。	重度化した場合、管理者とケアマネが対応しており、研修の内容にもターミナルケアを取り入れ、理解を深めるようにしている。	具体的な取り組み内容に関しては、前向きに取り組まれることに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は社内に掲示してある。しかしながら、訓練に関しては定期的に行われて居ない現状である。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常口の確保を行い、自治会との災害時の提携は結んでいる。	近隣の避難場所としては小学校になっているが、運営推進会議の中で、地域のご協力が頂け、近くの自治会館も利用できるようになった。	2階のバルコニーから屋外階段を使う場合の手順(避難ルート)を再確認することが望まれる。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況を把握し、その時に応じた声掛けを行っている。居室に入る際も声掛けやノックを行いプライバシーの保護に努めている。	研修は、法人の本部を中心に取り組んでおり、接遇面や個人情報の保護について力を入れている。	権利擁護の視点からも、職員のメンタル面や認知症ケアも関連づけて考える必要があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食や買い物をする際には、本人の意思を尊重し、自己決定を促している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴に関しては無理をせずに、入居者の意思を尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を、声かけによって季節や温度に合った衣類を着用して頂いている。	/		/
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や食事の取り分けを中心に食事に関する事に携わって頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量を記録に残し、栄養バランスに留意し、脱水等を防止する様に水分量チェックも行っている。	/		/
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、口腔ケアに留意している。又歯科医往診時にもケアして頂いている。			

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り立位の確保出来る入居者には自立に向けた支援を行う様にしている。又、排泄パターンを掴む為にも、チェック表を用いている。	排泄のパターンは、記録に記し、個々のリズムを把握し、自立に向けての支援に繋がっている。	今後も、利用者の安心や自尊心への配慮をしながら、自立に向けての支援を行うことを望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘も排泄チェック表を元に個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているものの、無理に入浴して貰う事無く入居者の意思を尊重している。	一日おきに、入浴の声掛けを行っている。土日を含め、午前・午後とも対応できるようにしている。	入浴時の1対1での対応の際、利用者との会話内容も意識し、「思いの把握」に繋がって頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の意思を尊重し、無理に起床を促す事無く睡眠時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を元に現在服用している薬の内容を理解している。臨時薬も同様。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レクや手作業等様々な面から気分転換を行える様に留意している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等は日常的に行われている。又買い物等も徒歩や車で近隣・遠方に出掛けている。	地元の東山商店街に買い物に出かけたり、馴染みの理容室を訪れたりしている。近くの保育園との交流や外食等、日常的な外出の機会が確保されている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散髪や買い物の際は利用者自身で支払いをして頂く様に留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては職員が取り次ぐものの、入居者自身が意思伝達をされている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な物は取り除き、使い易さを優先している。又季節やイベント毎に飾りつけをしている。	建物が高台にあるため、居間からの眺めがよく、明るく風通しも良い。廊下や食堂などの飾りつけは、利用者や職員が行っている。建物の入り口付近には、プランターを置いて小さな菜園作りもしている。	敷地内の庭部分に寛げるスペース(テーブル・椅子等)を設置し、外出が困難な方も含め、身近に外気にあたれる工夫をされては如何でしょう。(庭でのティータイム等)
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にはソファを配置したり、食事の際の席においても、個々の状況を配慮した形に成っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前生活されていた場所で使用されていた物品を持ち込んで頂いている。	各部屋は、利用者の気に入ったものを持ち込んでいる(絵画・TV等々)。畳敷きの部屋もある。床材には、桐の木を用いたフローリングを採用し、転倒時の衝撃の軽減に活かしている。	今後の心身状況等の変化に応じて、その状態に適した、安心で安全な居室環境づくりに今後も期待をします。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に使用する頻度が高い、洗面所や浴室等は安全を考慮している。		